

# に出会えます



ひょうごフィールドパビリオンの核となる「SDGs 体験型地域プログラム」に応募した地場産業の担い手と審査に携わるコアメンバーに、プロジェクトへの意気込みや期待についてお話を聞きました。皆さん県外出身で、外からの視点に基づいたアイデアなど、多様な意見が出されました。

**西山さん** 日本酒は若い人たちには敷居が高い世界です。そこで、酒造りの発酵技術を生か



し、酒以外に間口を広げることにしました。今秋、蔵を改装した複合施設がオープンします。発酵をテーマに発酵食を食べたり発酵調味料を作ったりしてもらうことで、日本酒にも興味を持っていただけたらうれしいです。

**齋藤** 取り組みを進める中で、どのような課題がありますか。

**玉木さん** 製品を作っているラボは見学や染色などの体験も可能ですが、ものづくりは簡単だと誤解されるのは避けたいと思っています。例えば藍染め体験はすぐにできますが、アイの栽培を含めた前工程は手間暇のかかるとても大変な作業です。そこを誤解されないよう、体験していただく前にその背景もきちんと伝えなくてはいいけません。

**古田さん** 観光コンテンツについては、そこでしかできない体験が求められています。特に欧米では手仕事を国外に外注するようになったので、日本の手仕事に価値を感じてくれます。片手間のワークショップではなく、宿泊してじっくり本物の体験を提供していただけたら。ただし、中には手軽さを求める人もいますので、

両方あればいいですね。

**西山さん** インバウンドの対応が課題です。外国語を話せる人材が少なく、コンテンツの価格設定も自分たちでは客観的な判断ができず悩みます。

**古田さん** 言葉については全国的に問題になっています。地域ごとに一括で受けて通訳ガイドを差配する方法がありますが、まだあまり例がありません。ただ、富裕層はガイドを連れて来るのでそれほど心配はいりません。また、今後はオンラインの申し込みも増えますので、専門業者に予約の受け付け業務などを頼む手もあります。

## 万博後には新しい兵庫に

**齋藤** 万博終了後にどうつながりも重要です。

**古田さん** 「リジェネラティブ」という昔のものを見つめ直し、それを生かして新たなものを生み出す概念があります。今回はそういうものづくりを見つけるきっかけになるはず。再編されてイノベーションが起こることで、新しい兵庫が生まれます。恐らくそれは「懐かしい未来」になるのではないのでしょうか。

**齋藤** フィールドパビリオンには、万博の来場者だけでなく県内の子どもや若い人たちにも訪れてほしいと考えています。ふるさとを知り、誇りを持つことが人口流出の抑制にもつながれば。万博を遠い話ではなく、ぜひ皆さんが“自分ごと”として捉えていただけたらと思います。

## 丹波の地酒

丹波地域は日本三大杜氏のひとつ「丹波杜氏」のふるさと。現在も伝統を受け継ぎ、豊かな自然の中で7つの蔵で酒が醸されています。丹波杜氏たちは江戸時代後期から、冬の農閑期に伊丹や灘五郷などへ出稼ぎに赴き、各地の酒造りを支えました。



### 株西山酒造場

1849(嘉永2)年創業。俳人高浜虚子をはじめ文化人とのゆかりが深い酒蔵。近年は日本酒以外の商品にも注力しています。

☎0795-86-0331 ☎0795-86-0202



そこでしかできない  
本物の体験にこそ  
価値がある

**古田 菜穂子さん**

ひょうご観光本部  
ツーリズムプロデューサー

岐阜県生まれ。新聞記者やテレビディレクターなどを経て映画プロデューサーに。製品の販路開拓事業にも従事。

酒蔵ができる  
地域貢献の一つの  
形を示したい

**西山 桃子さん**

株西山酒造場女将

大阪府生まれ。銀行員、看護師を経て、結婚。妊娠を機に看護師を辞め、蔵の業務に従事。